

# ここから始まる

戦後の防衛政策を大きく変える法律が19日未明、成立した。「安全保障関連法（安保法）」。「違憲性が問われ、国会の内外で法案や慎重な審議を求める声が上がったが、届かなかった。民主主義を見つめ、考え、訴え続けよう——。この日も各地で人波が広がった。



国会での可決を国会前では、安保法に反対する人々が声を上げた。19日午後5時、日弁連発表

## 安保法各地で抗議の声

19日午後、国会正門前では300人近い人たちが輪を作った。「平和を求め、長い戦いを繰り返さない」と訴えては伝わらぬ。手紙を手に持ち、声を上げて訴え続けた。それらの中で、マ

イクを握った。「誰かが話し始めたなら輪ができた。横浜から駆けつけた会員の橋本隆幸（60）が話した。安保法成立は自宅のテレビで見た。「法審がついてきたのは分

かっていた。むしろ、声を上げることが大事だと思ってきた。」「法は成立したが、これからは本監の闘い」奈良市では、約800人（主催者発表）が参加した

19日午後、国会正門前では300人近い人たちが輪を作った。「平和を求め、長い戦いを繰り返さない」と訴えては伝わらぬ。手紙を手に持ち、声を上げて訴え続けた。それらの中で、マ

かっていた。むしろ、声を上げることが大事だと思ってきた。」「法は成立したが、これからは本監の闘い」奈良市では、約800人（主催者発表）が参加した

かっていた。むしろ、声を上げることが大事だと思ってきた。」「法は成立したが、これからは本監の闘い」奈良市では、約800人（主催者発表）が参加した



高校生先頭に予定通り進んだ。19日、京都市中野区、伊藤池公園で、安保法に反対する人々が声を上げた。19日、高槻市



たれの子ともこころさせない

## 高校生も集い新グループ

興論や批判が届かない国会で、おかしなことをする人間や偽りを感ずる若者たちの新たなグループが立ち上がった。SCHOOL OF DEMOCRACY (S.O.D.) IN KYOTO。19日に京都市であった初行動には約30人の高校生を含む約700人（主催者発表）がS.O.D.を通じて集まり、民主主義の未来をめぐり

に臨んでいた。S.O.D.は、参加した高校3年生の男子生徒（1）大阪府に取組む「未来を勝手に決められるのは腹が立たず、どうも安保法を阻止することができると決意を述べた。幼い子どもを連れて加わった女性からは「若い子が立ち上がって声が出てほしい」という声が上がっていた。京木香

### 訴訟の可能性も

憲法学者の多くが「憲法違反」と主張した安保法。各地で提訴に向けた動きが相次いでおり、合憲か違憲かの論争の場は法廷に移りそう。国会で成立した法律が違憲かどうかは最高裁が最終的に判断するが、日本の制度では直接、法律の違憲性を審査する「憲法裁判」が、判例にない。判決にないものの、判決のために必要とされれば、憲法裁判の存在が認められる。また、憲法に政治性のある国家行為は、「見極めて明白に違憲無効でない限り、内閣の国会の判断を尊重する」との判例もあり、判断を避ける傾向もある。小林節、慶応大名誉教授らが履行後、東京地裁に提訴する準備を進めている。憲法前文の「平和のうちに生活する権利」が法の成立で侵害され、精神的苦痛を受けたとする国家賠償請求訴訟を検討している。

## 「世界の信頼壊した」メンバー

安保法の成立をめぐって19日、各地の団体が反対・賛成の声明や談話を相次いで出した。作家の浅田次郎氏が会長の日本ペンクラブは「民主主義を、おなじみの日本社会に置き、戦後の日本社会が培ってきた平和主義、世界の人々からの信頼を壊した。日本原水爆被害者団体協議会も「安保法は憲法の大原則を破壊し、海外の紛争地で原爆被害者に対するNGOなどへの関与を、NGO非営利は「安保法」は飛躍的に高まる」と歓迎した。

## 被爆者、核廃絶に影響心配

被爆者からも不安や懸念の声が上がった。各国で被爆体験を証言してきた被爆者（1）米川島市は「私の話を世界中の人たちが聞いてくれたのも、日本が戦争を止めたもといいて戦争は止まらなくていいから」と訴えている。被爆者からも不安や懸念の声が上がった。各国で被爆体験を証言してきた被爆者（1）米川島市は「私の話を世界中の人たちが聞いてくれたのも、日本が戦争を止めたもといいて戦争は止まらなくていいから」と訴えている。被爆者からも不安や懸念の声が上がった。各国で被爆体験を証言してきた被爆者（1）米川島市は「私の話を世界中の人たちが聞いてくれたのも、日本が戦争を止めたもといいて戦争は止まらなくていいから」と訴えている。

9/20 朝日